学校経営推進費　評価報告書（最終）

１．事業計画の概要

学校名	大阪府立東淀川高等学校　全日制の課程
取り組む課題	生徒の学力の充実
評価指標	・学校教育自己診断における「授業満足度」及び「授業で発表する機会」の割合向上 ・授業アンケートにおける「授業に興味・関心をもつことができた」 「授業を受けて知識や技能が身に付いた」の割合向上 ・外部学力調査における学習習慣の定着及び学力結果の向上
計画名	「輝け！川高生－生徒が学びの主役になれる授業を」

２．事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の中期的目標	１　確かな学力の育成 （１）　生徒の(a)基礎・基本となる学力の定着ならびに「学ぶ意欲」や、生徒一人ひとりが自らの考えを的確に伝え、相手の意見も傾聴できる(b)コミュニケーション力を育成する。 イ　生徒の主体的な学習態度を育成するため現状を把握し、(b)「考える、まとめる、発表する」等の力を高める授業を実施する。 ３　生徒の自己効力感と人権意識を向上 （１）　ウ　学校行事（体育祭や文化祭等）や学年行事、ホームルーム活動など、(b)生徒が主体的に企画・立案、運営し、達成感や満足感の伴う取組みの充実 ４　学校全体の課題を解決するため、組織的活動の徹底と教職員力を向上 （２）　(c)「中国等帰国生徒及び外国人生徒入学者選抜」(*)の実施を見据え、入学生徒の受け入れ態勢や指導体制の確立 (*)「日本語指導が必要な帰国生徒・外国人生徒入学者選抜」に改称 （４）　(c)配慮を要する生徒への共通理解を図り、カウンセリング機能を活かした適切な指導
事業目標	「生徒が学びの主役になれる授業」づくりのために ž 本校生徒の特徴として、入学直後は「勉強する意欲」は低くはないものの、学習習慣と学力結果を維持・向上させることが課題になっている。 ž 平成 27 年度、学力向上チームにおいて、本校生徒には「達成感」「甘えさせない」「参加型」学習が必要であるとの取りまとめを行い、全校で共有した。 ž 本校では従来から電子黒板やプロジェクターを活用する授業を行ってきたものの、台数や場所が限られており、生徒自らが十分に活用するまでには至らなかった。 ž ICT 機器の全普通教室等への整備と活用を通して、「生徒の学力定着と学ぶ意欲の向上」「コミュニケーション力の育成」「外国にルーツのある生徒、配慮を要する生徒へのサポート」などを行う。 (a) 生徒の学力定着と学ぶ意欲の向上 生徒の知識定着、理解の深化及び学ぶ意欲の向上のため、教材の視覚化を行い、わかりやすくかつ内容を深めた授業を実施する。また、生徒の様子を確認しながら的確に指示することで、学習意欲を高める。 (b) コミュニケーション力の育成

	生徒が主体的に学習するとともに、自分の考えをまとめ、発表する力を育成するため、授業や総合的な学習の時間等において、調べ学習やプレゼンテーション等を実施する。 (c) 外国にルーツのある生徒、配慮を要する生徒へのサポート 教材の視覚化などの工夫により、外国にルーツがある生徒の学校生活や学習活動への理解を促進する。障がいのある生徒等に対して、個々に応じてきめ細かい指導を行い、学校生活や学習活動への理解を促進する。
整備した設備・物品	短焦点プロジェクター（無線 LAN 使用可） ＊ 11 台設置：平成 28 年 11 月 23 日、６台追加設置：平成 29 年１月末、２台追加設置：平成 29 年３月末 ＊ 平成 29 年度末までに全普通教室（30 教室）に設置 ＊ マグネットスクリーン・タブレット PC（カメラ機能搭載）については学校管理費等で購入
取組みの主担・実施者	主　担：　学力向上チーム及び ICT 機器を活用する授業の担当者等 実施者：　全教職員の７割程度の活用を予定
本年度の取組内容	(a) 固定式プロジェクターを用い、教材の視覚化などの工夫をした授業の実施を拡大 ž 実施科目（国語・地歴公民・数学・理科・保健体育・家庭・英語） ž 授業での活用総時間数　1962 時間 (b) 授業や総合的な学習の時間における生徒の ICT 機器の活用を実施 ž １年：夏休み研究発表会　クラスで発表に活用→学年全体の発表を実施 ž ２年：総合的な学習の時間・ＨＲで活用 (b) 生徒による下級生へのコース等のプレゼンテーションの実施を検討 ž １年生夏休み研究発表会の取組みの成果を次年度以後に継承（予定） (c) ユニバーサルデザインに基づいた授業の実施 ž 「日本語指導が必要な生徒選抜」による入学生徒向けに映像・図の活用、外国語←→日本語の切替えを実施 ž 実施科目（世界史・国語（日本語）・保健・化学基礎） 【取組み充実に向けた流れ】 職員研修（機器の使用．５月）及び研究授業（６月） → 教科での教材開発、蓄積及び協議（９月～） → 学校教育自己診断等に基づき分析・評価（１・２月） → 今後も継続して取り組む中での、次年度の活用方法について検討（２・３月）
成果の検証方法と評価指標	(a) 学校教育自己診断における「授業満足度」75%（H27.63%　H28.67%　H29.71%） 授業アンケートにおける 「授業に興味・関心をもつことができた」2.97（H27.2.88　H28.2.91　H29.2.94） 「授業を受けて知識や技能が身に付いた」3.03（H27.2.94　H28.2.97　H29.3.00） (b) 学校教育自己診断における 「授業で発表する機会がある」55%（H27.42%　H28.46%　H29.50%） 外部学力調査（進路マップ）において 「学力結果」　３年次Ｃ２　55% 気持ち・生活アンケート結果」１年９月 「頑張って成績を伸ばしたい」41%（H27.32%　H28.35%　H29.38%） 「自宅学習している」48%（H27.39%　H28.42%　H29.45%）
自己評価	(a) 学校教育自己診断における「授業満足度」57%（△）（H27.63%　H28.61%　H29.62%） 授業アンケートにおける 「授業に興味・関心をもつことができた」3.10（◎）（H27.2.88　H28.2.97　H29.3.06） 「授業を受けて知識や技能が身に付いた」3.14（◎）（H27.2.94　H28.3.01）H29.3.09） (b) 学校教育自己診断における

	「授業で発表する機会がある」59%（◎）（H27.42%　H28.53%　H29.53%） 外部学力調査（進路マップ）において 「学力結果」１・２年９月結果を次年度４月に維持 １年９月Ｃ２　→　２年４月Ｃ２（◎）（63 期生） ２年９月Ｄ１　→　３年４月Ｄ１（△）（62 期生） 気持ち・生活アンケート結果 １年９月「頑張って成績を伸ばしたい」 36%（64 期生）（◎）（H27.32%　H28.24%　H29.28%） 「自宅学習していない」 27%（64 期生）（◎）（H27.39%　H28.42%　H29.37%） 【コメント】 （１）３年間で評価が向上したもの ž 学校教育自己診断の「授業に興味・関心」・「知識・技能が身に付いた」 ž 学校教育自己診断（生徒向け）の「授業で発表する機会」 ž 気持ち・生活アンケート結果「成績を伸ばしたい」、「自宅学習していない」生徒の減少 （２）３年間で評価が十分向上しなかったもの ž 学校教育自己診断（生徒向け）の授業満足度（低下） ž 外部学力調査（進路マップ）における学力結果 （１年から２年生では結果を維持、２年次に学力結果が低下） （３）まとめ ž プロジェクターの活用機会が増加（H28 のべ 103 件（実試用期間２か月）→H30 のべ 3830 件） ž 発表機会の充実など、教員の授業の在り方が変化し、生徒の授業に対する評価が大きく向上 ž 授業満足度、学力結果には十分反映されていないことが課題
事業のまとめ	(a) 固定式プロジェクターを用い、教材の視覚化などの工夫をした授業の実施を拡大 (b) 授業や総合的な学習の時間における生徒の ICT 機器の活用の実施を拡大（公開授業や研究協議を実施） (b) 生徒による下級生へのコース等のプレゼンテーションを実施 (c) ユニバーサルデザインに基づいた授業の実施を拡大 【取組み充実に向けた流れ】 職員研修（機器の使用．５月）及び研究授業（６月） →教科での教材開発、蓄積及び協議（９月～） →学校教育自己診断等に基づき分析・評価（１・２月） →今後も継続して取り組む中での、次年度の活用方法について検討（１・２月） 【コメント】 （１）成果 ž 教材の視覚化など、工夫した授業の実施の拡大 ž ４月のオリエンテーションでのていねいな説明、及び公開授業週間において「プロジェクターを活用した授業」の公開推進（H29 前期）等により機器活用の実施を拡大 ž 「日本語指導が必要な生徒選抜」による入学生の授業での活用など、生徒の理解に応じた活用を推進 （３）課題 ž プレゼンテーションの推進については、新学習指導要領等に係る取組みと併せて、一層の充実を図る。